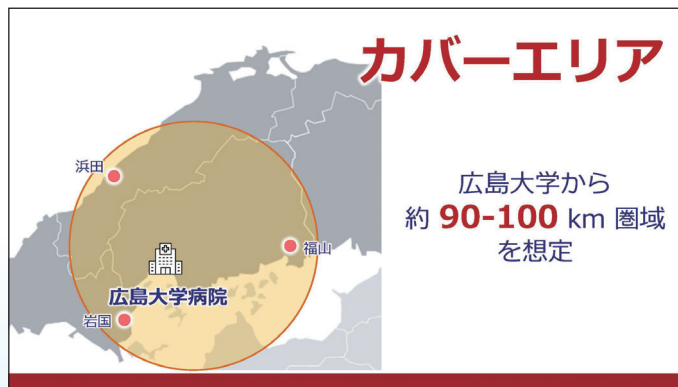


“走る集中治療室”を導入



心肺補助装置 (ECMO) や人工呼吸器を装着した患者さんを搬送できる

遠隔診療支援システム搭載 日本初の高規格病院救急車



車内には大容量の酸素や電源、
遠隔診療支援システムを備える

“走る集中治療室”を導入

遠隔診療支援システム搭載 日本初の高規格病院救急車

▶ 車内で医療処置可能 搬送中も集中治療継続

広島大学病院は、重症患者搬送に特化した高規格病院救急車を導入しました。心肺補助装置(ECMO)や人工呼吸器を装着した重症患者を安全に搬送できる装備と、遠隔医療(Telecritical care)機能を併せ持つ“走る集中治療室(ICU)”とも言える、日本初の取り組みです。令和6年度の文部科学省高度医療人材養成事業(大学病院における医療人材養成環境の更なる高度化)の採択を受けて整備しました。

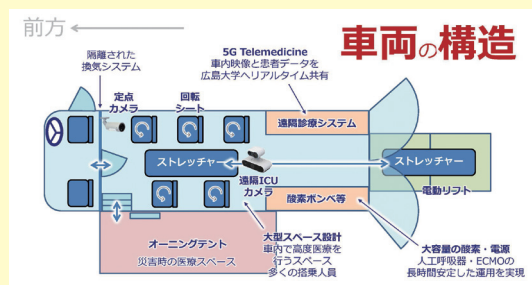


マイクロバスを改造した大型救急車で、最大搭乗人数は患者を含め8名。ストレッチャーベッドは1台、車いすであれば最大3名と医療スタッフを搬送できます。大容量の酸素と電源を搭載しており、心肺補助装置や人工呼吸器の安定運用が可能で、搬送中も集中治療を継続できる環境を実現しています。搬送中に患者さんの状態に変化があっても、車内で医療処置が可能です。

▶ 5G通信で依頼元病院・救急車内・広島大学病院間で情報共有

5G通信を活用し、搬送中に依頼元病院・救急車内・広島大学病院の間でリアルタイムでの情報共有が可能です。広島大学病院遠隔医療支援センターで、救急車内の患者さんのデータや映像情報をリアルタイムに把握し、状態を評価することができます。

119番通報でなく、依頼元の医師から広島大学病院の高度救命救急センターへの電話連絡により出動します。出動エリアは広島県全域を想定していますが、広島大学病院から100キロ圏域の比較的近い地域については島根県や山口県の一部地域も対象としています。大容量の酸素・電力量により、3~4時間の長距離搬送が可能です。運転は主に、広島大学病院の救急救命士が担当します。



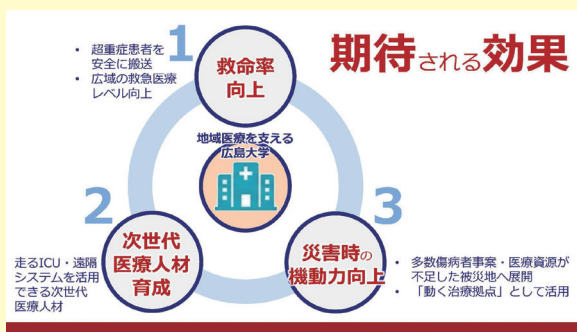
▶ 「患者を待つ医療」から「現場へ向かう医療」へ

従来の「患者を待つ医療」から「現場へ向かう医療」の役割も担い、災害時には被災現場における治療や搬送を担い、発電機能も活用します。臨床実習中の医学生に対する教育にも活用します。

重症患者は、高度医療機関へ集約することで救命率が向上します。しかし従来の救急車では、搬送中の状態悪化、医療機器の制約、長距離搬送のリスクといった課題がありました。特にコロナ禍にあっては、ECMO装着患者の搬送ニーズが増加し、「超重症患者を安全に運ぶ手段」の必要性が強く認識されました。

なぜ“走るICU”が必要なのか？

	従来型救急車	走るICU（本システム）
目的	移動のみ (病院へ運ぶための手段)	治療の場 (ICU機能の拡張)
リスク	あり ・ 長距離搬送中の悪化リスク ・ 医療機器の制約	低減・安全 ・ ICUスタッフチーム同乗による高度医療の継続
情報連携	電話のみ ・ 到着するまで患者さんの詳細状況不明	5Gリアルタイム通信 ・ 到着前に治療方針を決定 ・ 即時介入



▶ 「救命率向上へ尽力」 地域医療人材育成も

広島大学病院救急集中治療科の山下慎一郎准教授は「これまで搬送が難しかった重症患者さんを安全に広島大学病院へ搬送し、高度治療につなげたいと思います。地域の皆様の救命率向上にいっそう力を尽くします」と話しています。

高規格病院救急車の導入により、広島大学病院は、広島県全域の救命率向上にさらに貢献してまいります。あわせて、地域医療人材の育成や地域医療の質の向上に取り組んでまいります。



ニュースアップ

広島大学病院は母乳バンクのドナーミルク使用施設に お母さんの選択肢広がる

広島大学病院は2026年4月から、日本財団母乳バンクのドナーミルク使用施設になりました。これにより、体重1500g未満の赤ちゃんや消化器疾患をもつ赤ちゃんを対象に、母乳がたくさん出るお母さんから提供してもらった母乳「ドナーミルク」を利用できます。母乳は栄養面だけでなく、赤ちゃんの免疫力を高め、感染予防にも重要な役割を果たしており、ドナーミルクの導入により栄養方法の選択肢が広がることは赤ちゃんにとって大きな利点といえます。



早産の赤ちゃんは腸が成熟しておらず、壊死性腸炎にかかると生命に関わる場合があります。この病気は粉ミルクと比べて母乳で育てることで発症率が低下することが知られています。一方で、早産のお母さんは母乳分泌が安定するまで時間を要するケースも多く、その間をドナーミルクでつなぐ考えも広がってきています。

ドナーミルクは、日本母乳バンク協会のドナー登録施設から集められます。これまでに輸血や臓器移植、がんなどの治療をしておらず、6カ月以内の血液検査で異常がなく、感染症にかかっていないお母さんから提供を受けます。低温殺菌を行い、細菌検査を経て提供され、安全性は確保されています。

繰り返す腫れやむくみ HAEに理解を 広島大学病院モニュメントを紫色にライトアップ

遺伝子の変異により血液中の特定のタンパク質の機能が低下し、体のいたるところに腫れやむくみを繰り返す遺伝性血管性浮腫(HAE)を広く知ってもらうため5月16日から18日まで、広島大学病院入り口近くのモニュメント「Four Seasons Tree(四季の木)」が紫色にライトアップされました。



のどが腫れ呼吸困難に陥ると、生命の危険も伴う希少疾患。理解を深めてもらうため、一般社団法人遺伝性血管性浮腫診断コンソーシアム(埼玉県草加市)が呼びかけ、全国のランドマークなど53施設で展開されたHAE DAY(5月16日)の取り組みです。

HAEは10歳から20歳代に発症することが多く、5万人に1人の発症率で、国内には2500人ほどの患者さんがいると推定されています。皮膚(手足、顔面など)が腫れても、痛みや強いかゆみを伴わないのが特徴です。2、3日で症状は治まるため、病院にかからないケースも多いのが実情です。

繰り返す腫れやむくみの症状にお悩みの方は、ぜひ早めの受診を。

麻酔の動画サービスを始めました 手術前、ご自宅で理解深めて

広島大学病院は2026年4月から、手術を控えた患者さんに対して、麻酔や入院、手術後の注意点などをわかりやすく説明する動画サービス「MediOS(メディオス)」を導入しました。「MediOS(メディオス)」は、医療機関向けに治療説明動画の制作を手掛けるContrea(コントレア社、東京)が開発した医患連携システムです。

ご自宅でスマートフォンやタブレットなどから視聴でき、ご自身のペースで理解を深めていただけます。必要な情報を過不足なく提供するとともに、ご家族とも共有することで、十分に納得したうえで安心して治療を受けていただくことを目的としています。

お渡しするQRコードを読み取って専用サイトにアクセスし、診察券番号を入力すると、動画をご視聴いただけます。動画では、入院前の準備から手術室に入るまでの流れ、全身麻酔の方法や注意点について解説しています。手術前の健康管理の重要性や、手術室では安全を最優先に麻酔や手術を進めること、麻酔から覚めた後のことにも触れています。

なお、手術前には従来通り、麻酔科医による術前診察を行い、麻酔についての説明をするとともに、患者さんからのご質問にもお答えします。あらかじめ動画で基礎的な知識を得ていただくことで、診察時にはより個別性の高い重要事項の説明に時間を充てるのが可能となります。

今後は、局所麻酔や神経ブロックなどの説明にも本サービスを拡大していく予定です。動画を通じて、患者さんがより安心して治療に臨める環境づくりを目指してまいります。

看護師 プラス

看護師の業務が拡大しています。「専門看護師」「認定看護師」は高度化・専門化が進む医療現場でレベルの高い看護を実践できる看護師に認められた資格です。いずれも日本看護協会が認定しています。

専門看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、看護系大学院で修士課程を修了して必要な単位を取得したのちに、専門看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、13分野。認定看護師は、看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める600時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格で、21分野です。それぞれの資格を持った看護師がどんな活動をしているのか、紹介していきます。



[認定看護師]
クリティカルケア
井上 隆治

01 : どんな仕事？

クリティカルケア認定看護師は、看護の対象を限定せず、幅広い領域で活動できるところに特徴があります。その中でも私は救急看護に高い専門性を持ち、ICUやRRT (Rapid Response Team)、三次救急対応、ドクターヘリに携わり、生命の危機に瀕した患者さんとご家族に対し、救急看護・集中ケアを提供しています。さらに、看護師特定行為を実践することによって医師とのタスクシフトを推進し、適時・適切に医療と看護を患者さんへ届けられるよう日々活動しています。



02 : きっかけは？

看護師になる前に高齢者施設で介護福祉士として従事していたのですが、目の前で急病を発症された方がいました。その時に何もできなかった経験が看護師へ転職するきっかけとなりました。その苦い記憶を糧として、救急看護を探求し続けた結果、認定看護師資格を取得し、さらに看護師特定行為研修を修了するに至りました。

看護師になる前に高齢者施設で介護福祉士として従事していたのですが、目の前で急病を発症された方がいました。その時に何もできなかった経験が看護師へ転職するきっかけとなりました。その苦い記憶を糧として、救急看護を探求し続けた結果、認定看護師資格を取得し、さらに看護師特定行為研修を修了するに至りました。

03 : 将来へ向けて

救急看護の実践家として探求を重ねるとともに、専門性を活かした育成を通じ、多くの患者さんへ最善のケアが届けられるようにしたいと考えています。また、当院が開講する看護師特定行為研修に指導者として携わっていますが、今後もこの役割を全うし、さらなる指導体制の充実に努め、地域医療へ貢献したいと考えています。



[認定看護師]
感染管理
山下 浩司

01 : どんな仕事？

主な活動は、医療現場において、「患者さん、ご家族、そして医療従事者自身を感染症から守ること」です。その役割は多岐にわたり、単に感染症を発症した患者さんの対応だけでなく、「感染させない仕組みづくり」を専門的な知識に基づいて行うことが最大のミッションです。具体的には、感染症発生状況のモニタリング、感染対策の実行とその評価、感染対策の指導や教育、意識づけ、感染症に関する専門的なアドバイスや相談、組織間の連携の5つが主な活動となります。



02 : きっかけは？

以前勤めていた病院で、感染リンクナースとして活動した経験がきっかけです。他のスタッフと共に院内感染対策を推進する中で、専門的な知見を持って組織を変えていくことの意義深さを肌で感じました。そんな中、自分の適性に自信を持たずにいた私に、その可能性を見出してくださったのは当時の看護師長でした。「あなたならできる」という言葉が大きな励みとなり、自分を変えるための挑戦として受験を決意しました。合格までの道のりは決して容易ではありませんでしたが、専門資格を取得したことで、視野が大きく広がったと感じています。私は今、その経験を活かし患者さんとスタッフの安全を守る役割を担うことに大きな使命感と誇りを感じています。

以前勤めていた病院で、感染リンクナースとして活動した経験がきっかけです。他のスタッフと共に院内感染対策を推進する中で、専門的な知見を持って組織を変えていくことの意義深さを肌で感じました。そんな中、自分の適性に自信を持たずにいた私に、その可能性を見出してくださったのは当時の看護師長でした。「あなたならできる」という言葉が大きな励みとなり、自分を変えるための挑戦として受験を決意しました。合格までの道のりは決して容易ではありませんでしたが、専門資格を取得したことで、視野が大きく広がったと感じています。私は今、その経験を活かし患者さんとスタッフの安全を守る役割を担うことに大きな使命感と誇りを感じています。

03 : 将来へ向けて

私が所属するのは小児科外来、化学療法室、透析室です。共通しているのが、免疫低下を来した患者さんに何度も行われる採血や点滴など無菌領域へのアクセスです。スタッフ個々が感染対策への知識や技術を大いに求められている部署だと私は思っています。そのため、所属部署においてスタッフへの感染対策の教育を継続的に行っています。これからも、チーム全体の感染対策のレベルの向上を目指し、患者さんとスタッフを感染から守ることを最優先に、科学的根拠に基づいた「現場で使える感染対策」を推進していきたいと思っています。

私が所属するのは小児科外来、化学療法室、透析室です。共通しているのが、免疫低下を来した患者さんに何度も行われる採血や点滴など無菌領域へのアクセスです。スタッフ個々が感染対策への知識や技術を大いに求められている部署だと私は思っています。そのため、所属部署においてスタッフへの感染対策の教育を継続的に行っています。これからも、チーム全体の感染対策のレベルの向上を目指し、患者さんとスタッフを感染から守ることを最優先に、科学的根拠に基づいた「現場で使える感染対策」を推進していきたいと思っています。

診療科最前線

「形成外科」

(診療科長:永松将吾 教授)



▶ 診療科の特徴

形成外科は、外傷や先天異常、がん切除後の再建、難治性潰瘍など、全身の体表に生じるさまざまな異常や変形、傷を対象とする診療科です。「機能」と「形態」の両方の回復を目指し、患者さんの生活の質(QOL)向上に貢献します。

形成外科は2018年から基本19診療領域の一つとなりましたが、広島県では普及が十分とは言えず、人口当たりの形成外科医数は全国でも少ない状況です。そのため、形成外科が担う役割や診療内容が十分に知られていない一方で、地域の医療ニーズは高い状態が続いています。広島大学病院形成外科は、形成外科診療の提供に加え、専門医の育成や研究を担う県内の中核施設として活動しています。

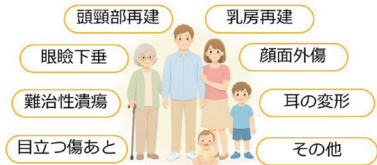
▶ 診療内容と役割

形成外科の特徴は、特定の臓器や疾患に限定されず、診療科の枠を越えてチーム医療で手術手技や専門知識を提供できる点にあります。当科では、耳鼻咽喉科・

頭頸部外科、歯科口腔外科、乳腺外科、消化器外科などと連携し、頭頸部がんや口腔がん、乳がん術後の再建手術を行っています。

また、術後創感染や縫合創が開いてしまった後の難治性創傷、糖尿病性をはじめとする足潰瘍にもチーム医療の一員として対応し、さまざまな手技の提供により創治癒の促進と早期の社会復帰を支援しています。

さらに、顔面外傷、唇顎口蓋裂や小耳症、多合趾(たごうし)症などの先天性疾患、傷あとやそのひきつれ、外傷やがん治療後の体表変形、アピランスケアなど幅広い疾患を診療しています。



こんな時は形成外科へ

全身の再建と機能回復に貢献します

▶ 得意分野と地域医療への貢献

当科は、顕微鏡下で血管をつなげるマイクロサージャリーを用いた遊離組織移植を伴う高度再建外科を強みとしています(過去10年間で500例超,生着率98.4%)。

一方で、形成外科は「どこに相談すればよいか分からない傷や変形」を扱う専門家でもあります。診療科や施設の垣根を越えて連携し、患者さんと医療従事者の皆さまが気軽に相談できる窓口として、地域医療に貢献してまいります。



催しのご案内

(2026年7月~10月)

世界肝炎デーイベントのお知らせ

7月28日(火) 13:00~15:00 (消化器内科×歯科)

- ・無料肝炎ウイルス検査
 - ・口腔内の細菌を顕微鏡で観察
- 会場：広島大学病院診療棟3階イベントホール

肝臓病教室

「ウイルスだけじゃないあなたの周りに潜む肝炎!」

講師：消化器内科 医師 大野敦司

7月29日(水) 14:00~15:00

会場：臨床管理棟3階1・2会議室
申込：不要(参加費無料)
問い合わせ：肝疾患相談室



☎082-257-1541 (10:00~12:00 13:00~16:00)

がん治療を支える患者サロン

7月16日(木) 13:30~14:30 頭頸部がんを学ぼう

会場：臨床管理棟3階 3F4会議室/zoom 講師：耳鼻咽喉科・頭頸部外科 医師 濱本隆夫

9月17日(木) 13:30~14:30 がんリハビリテーション最前線
~運動による健康寿命の延伸~

会場：臨床管理棟3階 3F2会議室/zoom 講師：理学療法士 平田和彦

10月15日(木) 13:30~14:30 免疫療法(免疫チェックポイント阻害薬)の副作用について

会場：臨床管理棟3階 3F2会議室/zoom 講師：がん専門薬剤師 板村亮

患者おしゃべり会

7月28日(火) 9月29日(火) 13:30~14:30

申し込み・問い合わせ：がん相談支援センター ☎082-257-1525